UHR周波数読み取りツール（熊本さん開発版）

2022/6/1 土屋 → 2022/6/9 安福追記

必要なもの

・PC

（・ペンタブレット）

1. Adrasteaへのログイン

$ ssh uhr@adrastea.gp.tohoku.ac.jp -Y

Password : 20161220

$ cd uhrHtool

1. 読み取りデータの準備

$ ./gen-bit3.sh YYYYMMDD

YYYYMMDD：処理を行うデータの日付

1. 読み取りの実行

$ ./bit3-fufp2 YYYYMMDD NNN

YYYYMMDD：処理を行うデータの日付

NNNには読み取り行いたい時間に対応した、適当な番号を入れる。

NNN＝０・・・0:00 UT

NNNが１増えるごとに、時刻が５分進む

bit3-fufp2を実行すると、図１の画面が開く。

・マウス操作

Shiftキー＋マウス左ボタン：カーソル位置の時刻と周波数を記録

Controlキー＋マウス左ボタン：カーソル位置の時刻データを消去

・ボタン操作

Prev：５分前の時刻のデータを描画・データの記録

Next：５分後の時刻のデータを描画・データの記録

Draw：マウス操作の結果を再描画・データの記録

CLOSE：画面を閉じる

＾：周波数軸を上に移動

＋：周波数軸を拡大

―：周波数軸を縮小

ｖ：周波数軸を下に移動

パソコンの画面

中程度の精度で自動的に生成された説明

図１

1. 読み取りデータのテキスト出力

$ ./fufp3-txt YYYYMMDD > txt/YYYY/erg\_hfa\_l3\_high\_YYYYMMDD.txt

YYYYMMDD：処理を行うデータの日付　（２か所）

YYYY：処理を行うデータの年

この操作より、データが以下のURLから公開される

http://adrastea.gp.tohoku.ac.jp/~erg/data/hfa\_l3\_h/

1. IDL(SPADAS)を使ったデータの読み込み

ERG＞time\_span, ‘YYYY-MM-DD”

ERG＞load\_fufp\_txt, /high

load\_fufp\_txt.pro : UHR周波数テキストデータファイル用ロードプロシージャ  
hfa\_l3\_ne\_temp\_v03.sav：テキストデータファイル用テンプレート